

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 夢や希望、志を持ち、学びを通じて、自らの人生をたくましく生きる力と社会に貢献する力を兼ね備えた人材を育成する学校をめざす。
- (1) 自らの人生を切り拓き、生涯をたくましく生きる力を育む。
 - (2) 人を思いやり、強い責任感と高い規範意識を持ち社会に貢献できる力を育む。
 - (3) 自らの考えを的確に発信し、相手の意見も傾聴できるコミュニケーション力を育む。
 - (4) 特別枠入試（「日本語指導が必要な帰国生徒・外国人生徒入学選抜」）の実施に伴い、より一層多様な価値観を認め、異文化を理解し共生社会を実現する力を育む。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

- (1) 生徒に「学ぶことの意味」をていねいに伝えること等を通して「学ぶ意欲」を喚起する。また「主体的・対話的で深い学び」の観点から、基礎・基本の定着、および、自らの考えを的確に伝え、相手の意見も傾聴できるコミュニケーション力を育成する。
 - ア 分掌・学年・教科等が連携し、授業見学や研修、授業アンケートの活用等により授業改善を推進する。
 - イ 確かな学力の育成に当たり、生徒に異なる考え方を理解する力を育むという目標を教職員が共有する。そのうえで基礎・基本の定着のため、授業規律の徹底、ノートの取り方、話の聴き方、予習・復習の習慣や家庭学習の定着などについて指導する。
 - ウ すべての授業等において、自ら学び考える力、論理的に考え、まとめ、発表する力、相手の意見を傾聴する力を育成する。
 - エ 生徒の進路希望、興味・関心、能力・適性に応じた教育課程を実施する中、高い学力の育成のため発展的学習にも力を注ぎ、関西中堅私立大学への受験者合格者数増をめざす。

※生徒向け学校教育自己診断「授業満足度」の肯定的回答率を毎年2%以上引き上げ、令和4年度に80%をめざす。(H29 62%、H30 57%、R1 74%)

※生徒向け学校教育自己診断「授業で発表する機会がある」の肯定的回答率を毎年2%以上引き上げ、令和4年度に83%をめざす。(H29 53%、H30 59%、R1 69%)
- (2) 英語のコミュニケーション能力、英語の四技能（聞く・読む・話す・書く）の向上を図る。
 - ア コミュニケーションツールとして英語を学び、「積極的に英語を使う」学校づくりを推進する。
 - イ 国際理解教育を推進するとともに、各種検定試験の資格取得を通して英語運用能力の向上をめざす。

2 キャリア発達の支援

- (1) 生徒が望ましいキャリアの展望を持つために、以下の取組みを推進する。
 - ア 進路指導部が学年、関係分掌、教科と連携を図り、3年間を見通した組織的・系統的なキャリア教育を推進する。
 - イ 地域の専門機関等と連携し、自らの進路実現に向けて努力する生徒を育成する。
 - ウ 生徒の主体的学習を推進するため、1年次から生徒が自学自習する機会を設けるとともに、自習室を積極的に活用する。
 - エ ホームページ等を活用して、進路に関する情報を積極的に発信する。

※生徒向け学校教育自己診断「進路指導関係項目」の肯定的回答率を毎年1%以上引き上げ、令和4年度に84%をめざす。(H29 74%、H30 74%、R1 77%)

3 生徒の自己効力感と人権意識の向上（「自主自律」や「文武両道」の精神を育成）と、誰もが安心して学ぶことのできる学校づくり

- (1) 生徒の自己効力感の育成のために以下の取組みを推進する。
 - ア 生徒会と学年が連携し、学校行事、学年行事、ホームルーム活動、部活動等を通して達成感を実感させる。具体的にはクラスづくりや学年づくり、部活動への入部促進、ボランティア活動や地域貢献活動等への参加を推進する。
 - イ 1年次から行事等を主体的に企画・立案・運営するよう支援し、向上心や協調性を高めるとともに、コミュニケーション力やプレゼンテーション力を育成し、対人関係力の向上を図る。
 - ウ 「あいさつ」「服装・頭髪」「時間管理」等生活習慣の確立とともに、公共のルールやマナーを守る社会性を育成する。

※生徒向け学校教育自己診断「行事満足度」の肯定的回答率を毎年2%以上引き上げ、令和4年度に85%をめざす。(H29 72%、H30 71%、R1 79%)

※ボランティア活動等への参加者数、延べ500人以上を維持する。(令和元年度500人)
- (2) 生徒の人権尊重の意識を向上させ、他者に対する優しさ、ちがいを認め互いの立場や思いを尊重する心、状況に応じた言動ができる力を育成する。
- (3) 誰もが安心して学ぶことのできる学校として、健康安全教育及び防災教育等を組織的、計画的に実施する。
(いじめ等の防止、薬物乱用防止の取組み推進、組織的な防災避難訓練の実施)

4 学校全体の課題を解決するため、組織的活動の徹底と教職員力を向上

- (1) 自主的・主体的に物事に取り組む生徒の力を育成するため、以下の取組みを推進する。
 - ア 学校教育目標の共有とともに、卒業までの3年間を見通した組織的・系統的な教育活動を推進する。
 - イ 将来構想検討委員会・分掌・学年・教科等で取組みの連携を進めるとともに、取組みを分析・評価し改善につなげる。
- (2) 以下の学校全体の課題に重点的に取り組む。
 - ア 「日本語指導が必要な帰国生徒・外国人生徒入学選抜」による入学生徒への指導体制の確立。国際理解・国際交流の取組みの充実
 - イ 教職員の人権意識の向上をめざした研修の充実とともに、人権侵害事象の未然防止（SNSの適切な使用など）や関係諸機関と連携した指導の充実
 - ウ 配慮を要する生徒への共通理解を図り、カウンセリング機能を活かした適切な指導とともに、保護者や関係諸機関等（SCやSSW等）と連携した教育相談体制の確立
 - エ ホームページ等による教育活動の積極的で迅速な校内外への発信
- (3) 組織的にミドルリーダーや経験の少ない教員の育成に取り組むとともに、教員の自己研さんを進める。
- (4) 良好な教育環境の確保に努め、施設、設備の計画的な改善に取り組む。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和2年実施分]	学校運営協議会からの意見
(選択肢は、1 = よくあてはまる、2 = ややあてはまる、3 = あまりあてはまらない、4 = まったくあてはまらない。文中の回答の数字(%)は、特に指定しない限り1と2の合計を肯定的回答とする)	

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	<p>(1)「学ぶ意欲」の喚起。基礎・基本の定着。コミュニケーション力の育成</p> <p>ア 確かな学力の育成に向けた、授業見学、研修、授業アンケートの活用等による授業改善</p> <p>イ 基礎・基本の定着のための取組み充実</p> <p>ウ 自ら考える力、論理的な思考力、発表する力、傾聴する力等の育成</p> <p>エ 進路希望、興味・関心、能力・適性に合った教育課程の実施と発展的学習の充実</p>	<p>(1)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 目標やテーマを設定して授業公開を行うとともに、研究協議会を実施する。 個人と教科等で、フィードバックされた授業アンケート結果をもとに「ふり返りシート」の作成等により、ふり返りを行う。 教科代表者会議等で以下の取組みを実施 教育課程に関する情報提供 評価方法等の工夫・改善について検討 アンケート結果等を踏まえた効果的な習熟度別少人数授業を実施 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 異なる考え方を理解する力を持ち、自主的に学習に取り組む生徒を育成するため、年初に全教員で目標を共有する。 全ての授業で授業開始の挨拶や授業準備などの授業規律の徹底を図る。 新入生オリエンテーションや授業時に、ノートの作り方や聴く姿勢、予習・復習、家庭学習について継続的に指導（考査返却等を活用） 授業毎の目標明示と、適切なふり返りの実施により基礎学力の定着を図る。 生徒の困り感等を踏まえて、授業の見直しを行う。 <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> すべての授業等において考えをまとめ、発表する機会、相手の意見を傾聴する機会の充実を図る。その際、視聴覚機材等の活用とともに、教科会等で情報共有や検討を行う。 <p>エ</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の進路希望等に応じた教育課程や具体的な指導方法について教科会、教科代表者会議等で検討する。 関係分掌、学年、教科が連携し、年間を通して計画的で効果的な補習・講習を実施 	<p>(1)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員診断「学習指導計画・指導内容について教科で話し合う機会がよくある」68%以上 (R01:65%) 生徒診断「教え方に工夫をしている先生が多い」80%以上 (R01:78%) 授業公開と研究協議会の実施 (年2回以上) <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒診断「授業満足度」76%以上 (R01:74%) 授業アンケート「授業内容について、必要な予習や復習ができている」「授業中は、集中して先生の話を聞き、学習に取り組んでいる」平均値3.3を維持 (R01:3.3) <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒診断「授業で、自分の考えをまとめたり発表したりする機会がある」71%以上 (R01:69%) <p>エ</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒診断「自分の進路に必要な科目が選択できた」83%以上 (R01:81%) 四年制大学進学における希望実現80%以上 (R01:78%) 学校幹旋就職100%維持 教員診断「学習内容がわからない生徒について補習など、適切に指導を行っている」85%以上 (R01:83%) 	<p>*生徒向け学校教育自己診断 →生徒診断</p> <p>*保護者向け学校教育自己診断 →保護者診断</p> <p>*教員向け学校教育自己診断 →教員診断</p>
2 キャリア発達の支援	<p>(1)生徒が望ましいキャリアの展望を持つための取組み</p> <p>ア 校内連携を図り、組織的・系統的なキャリア教育の推進</p> <p>イ 専門機関と連携した進路実現の取組み</p> <p>ウ 主体的学習の推進のため、自学自習の機会設定と自習室の活用</p> <p>エ 進路に関する情報の積極的に発信</p>	<p>(1)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 関係分掌、学年、教科等が連携を図り、卒業までの3年間を見通した指導計画を作成 時間を有効活用し、計画的に行動する生徒育成のため、全学年でスケジュール帳の積極的な活用を推進 コミュニケーション力やリーダーシップ・フォロワーシップ等育成の観点を踏まえ、生徒の目標設定や取組みの推進を働きかける。 進路指導部が中心となり、過去データや教育産業データを有効活用する。 キャリアパスポート等を活用し、生徒に取組みの整理を促す。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 専門機関等を活用して、生徒の進路意識を高める説明会や体験の機会を設定 <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の主体的な学習を推進するため、関係分掌、学年、教科が連携して、生徒が自学自習する課題や機会を計画的に設定する。 <p>エ</p> <ul style="list-style-type: none"> ホームページ、携帯連絡網や懇談等の機会を活用し、進路に関する情報（模擬試験や進学の経費等）を保護者へていねいに発信 	<p>(1)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒診断「進路指導関係項目」82%以上 (R01:81%) 教員診断「教職員全体で進路指導に取り組む体制」40%以上 (R01:29%) <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 学年で体験等の機会を確保 (年1回以上) <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒実態を踏まえた講習等の実施 生徒診断「授業で分からないことについて先生に質問しやすい」77%以上 (R01:75%) <p>エ</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者診断「進路に関して連絡や適切な情報提供を行っている」76%以上 (R01:74%) 	

<p>3 生徒の自己効力感と人権意識の向上と、誰もが安心して学ぶことのできる学校づくり</p>	<p>(1) 自己効力感を育成する取組み推進 ア 学校行事等を通して達成感を実感させる取組み推進</p> <p>イ 行事等の主体的運営の支援</p> <p>ウ 生活習慣の確立と社会性を育成</p> <p>(2) 人権尊重の意識の育成</p> <p>(3) 健康安全教育及び防災教育の推進</p>	<p>(1) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒会と学年が連携し、学校行事等を通して生徒に達成感を実感させる。 入学直後の部活動紹介の工夫や、新入生の全員仮入部等により部活動への加入促進 ホームページ等で試合予定等を周知 生徒会や部活動等が中心となり、ボランティア活動や地域貢献活動への自主的な参加を促進する。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 体育祭（応援団）、文化祭指導等について教員の指導委員会等で計画的な指導。生徒の取組みに教員が積極的に関わる。 「総合な探究（学習）の時間」や学年行事、ホームルーム等において、視聴覚機材等を活用して、考えをまとめ発表する機会、相手の意見を傾聴する機会を充実 <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> 遅刻生徒の実態を踏まえた具体的な指導方法を検討し、学校全体で取り組む。 SNSの使用、アルバイトについて、生徒状況を踏まえた指導とともに、保護者にも情報周知 あいさつ運動等、生徒の社会性を育成する取組みを実施する。積極的にあいさつをするなど教員も取組みを支援する。 自らルールを守る生徒育成のため、教職員が指導方針を共有し、学校全体で指導に取り組む。その際、多様な生徒に配慮しながら、ルールを守る指導を行う。 指導方針をていねいに説明し、生徒・保護者との協体制を構築する。 <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 文化祭や体育祭などの学校行事、国際交流行事、国際理解学習等の人権意識を育む機会を通してルールを守るとともに、人を思いやる意識を育む。 クラス、学年での活動を通して多様性を認める集団づくりに取り組む。 <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康安全教育及び防災教育等を組織的、計画的に実施する。 	<p>(1) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒診断「学校行事満足度」81%以上 (R01:79%) 生徒診断「部活動満足度」70%以上 (R01:68%) 学期に1回、部活動予定を周知 ボランティア活動参加者数500人以上を維持 (R01:500人) くろーばあ部と他部活動等でボランティア活動・地域貢献活動に参加 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒診断「文化祭・体育祭が楽しく行えるよう工夫されている」78%以上 (R01:76%) 各学年で「総合的な探究（学習）の時間」等を活用した発表の機会（年1回以上） <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> 遅刻者総数を年間2000件以下 (R01:2741件) 朝のSHRを継続して実施 生徒会と協力し、社会貢献活動等の取組みを実施 教員診断「協力して生徒指導に当たっている」70%以上 (R01:67%) 保護者診断「学校の生徒指導方針に共感できる」73%以上 (R01:71%) <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒診断「学校で人権や命の大切さについて学ぶ機会が多い」83%以上 (R01:81%) <p>(3) いじめ対策委員会（各学期1回） 薬物乱用防止教室（年1回） 組織的な防災避難訓練（年1回）</p>
---	---	--	--

<p>4 学校全体の課題を解決するための組織的活動の徹底と教員力の向上</p>	<p>(1) 自主的・主体的に取り組む生徒の育成 ア 学校教育目標の共有と組織的・系統的な教育活動の推進 イ 取組みの連携と分析・評価、改善の推進</p> <p>(2) 学校重点課題 ア 渡日生指導体制の確立と国際交流の充実 イ 教職員の人権意識の向上と人権侵害事象の未然防止に向けた機関連携 ウ 配慮を要する生徒指導と保護者や関係諸機関等と連携 エ ホームページ等による情報発信</p> <p>(3) 組織的な教員の育成と教員の自己研さん (4) 施設、設備の計画的な改善</p>	<p>(1) ア ・自主的・主体的に取り組む生徒を育成するため、年初に全教職員で目標を共有する。その際、学年全体を三年間見通すとともに、異なる考え方を理解する力を育成する観点を踏まえる。 ・将来構想検討委員会・分掌・学年・教科等での連携、学年において担任・副担任の連携を推進 ・学年・分掌間で目標の共有とともに、期間(学期をめぐり)にふり返りを行う。年度末には取組みを分析・評価のうえ、次年度・次学年に引き継ぐ。</p> <p>(2) ア ・渡日生の受入れについて学外へ周知する。学内では組織的かつ学校全体で取組みを推進する。 ・スタディツアーの実施等、国際交流の取組みを推進する。 イ ・教職員研修等による情報共有や全教職員での話し合いの一層の充実により、全教職員の人権についての意識と行動力を高める。 ・教員からの働きかけや、生徒の学ぶ機会の充実により、人権を大切にする生徒を育成する。 ・SNSの適切な使用について学年で生徒向け学習会等を実施 ウ ・教職員研修等により、個々の教職員が生徒の相談や抱える悩みなどに対応できる力を身に付ける。 ・高校生活支援カードの活用充実等で配慮を要する生徒の情報を学校全体で共有 ・生徒の変化に迅速に対応するため、学年と教育相談委員会が協力し、保護者や関係諸機関(SC、SSW、福祉機関等)との連携を推進 エ ・ホームページや学校パンフレット等を活用し、本校の特長(普通科専門コース制、特別枠入試等)について情報発信する。 ・自然災害等緊急時に備えてホームページや携帯連絡網等の整備を行う。</p> <p>(3) ・管理職、首席、指導教諭等を中心に、経験の少ない教員等の育成・指導の観点を踏まえ、研修会等を実施する。 ・会議のペーパーレス化、会議数の削減等、学校全体で業務の見直しを行い、教員の負担軽減に努める</p> <p>(4) ・生徒の自主的な取組みを一層推進し、学校全体での取組みに拡大するとともに、全生徒の環境整備についての意識を高める。 ・施設・設備について計画的な改善に努める。</p>	<p>(1) ア ・教員診断「教育活動について、教職員で日常的に話し合っている」85%以上 (R01:83%) イ ・教員診断「分掌や学年等での連携が円滑に行われている」70%以上 (R01:67%) ・教員診断「教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に活かしている」50%以上 (R01:42%)</p> <p>(2) ア ・学内外の説明会で受入れについて周知(5回以上) ・渡日生の情報共有のための学習会等を実施(各学期1回以上) ・次回スタディツアーの企画立案 イ ・教員診断「人権尊重に関して全教職員で話し合っている」67%以上 (R01:64%) ・生徒診断「人権や命の大切さについて学ぶ機会が多い」83%以上 (R01:81%) ・生徒診断「SNSを適切に使用」90%以上を維持 (R01:90%) ・保護診断「子どもはSNSを適切に使用」89%以上 (R01:87%) ・生徒診断「悩みや相談に応じてくれる先生が多い」77%以上 (R01:75%) エ ・保護者診断「学校のホームページをよく見る」40%以上 (R01:31%) ・保護者診断「携帯連絡網は役立っている」88%以上維持 (R01:88%)</p> <p>(3) ・研修会を各学期に1回実施 ・運営委員会で年間を通して、業務の見直しを行う。</p> <p>(4) ・生徒が中心となり学校内外の清掃活動を実施(各学期1回以上) ・生徒診断「教室や廊下等の清掃が行き届いている」68%以上 (R01:65%) ・生徒診断「学校の施設や設備、学校で使う道具や器具は、すぐに修理したり取り替えたりしてくれる」70%以上 (R01:67%) ・教員診断「教室や廊下等の清掃をはじめ、教育環境の整備に努めている」68%以上 (R01:65%)</p>
---	---	--	---